

今回はドイツのクリスマスについて話したいと思います。キリスト教圏にとってキリストの誕生を祝う大事な祭りの日です。日本では24日は恋人と過ごす日であり、子供たちはクリスマスプレゼントをもらう日でもあります。しかしドイツでは、クリスマスは家族と過ごす日です。また、子供たちにプレゼントがやってくるのは12月6日と24日と二日あります。6日には聖ニコラウスとクネヒト・ループレヒトがプレゼントを持ってくると言われています。ニコラウスについては説明を省略するとして、クネヒト・ループレヒト（黒いサンタ）について少し説明します。クネヒト・ループレヒトはサンタの付き人として現れ、悪い子にプレゼントを渡す役、もしくは懲らしめる役を持っています。伝統的には、子供たちにお祈りができるか尋ね、できると答える子たちにはリンゴや木の実を与え、できないと答える子は灰袋でたたくというものです。ほかの場合として、悪い子にはプレゼントとして石炭や棒、石を置いていくというものです。またほかにもクランプスという悪魔が脅かしにくる場合もあるようです。そして、24日にプレゼントを届けるのはキリスト・キントもしくはヴァイナハツマンといわれます。ヴァイナハツマンはドイツ語版のサンタクロースですが、キリスト・キントは天使です。ニュルンベルクでは2年に一度コンテストで選ばれ、選ばれた女性は白と金の衣装と金の巻き毛を身に付けてクリスマスマーケットの開幕宣言を行なったりします。

もうひとつ、ドイツといえば忘れてはいけないのがクリスマスマーケットの存在です。ドイツではアドベント期間に町の中心地でクリスマスマーケットが行われます。町によって時期は様々ですが11月の末から12月のクリスマス前くらいまではどこの街でも見ることが出来ます。マーケットでは、グリューワインやシュトレン、他にも様々な露店が並びます。左の写真はトリアで撮ったものです。ドイツの冬は夜が長く、そしてとても暗いのでクリスマスマーケットのイルミネーションはとても華やかに飾られます。町ごとに少しずつ違ったりするのでいろいろな町へ行ってみると面白いと思います。もし、ドイツへ旅行に行く機会があれば、クリスマスマーケットを訪れてみてください。

